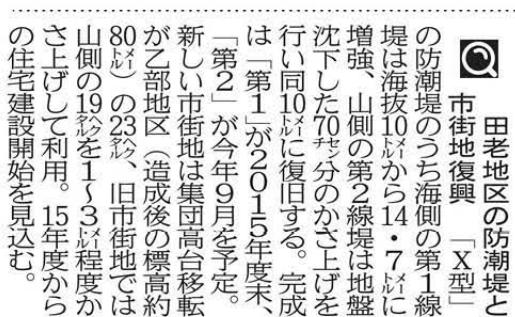




被災直後の宮古市田老地区。巨大防潮堤付近には大量のがれきが散乱していた=2011年3月12日



田老一中の生徒会役員に就いた生徒たちと担当教諭。被災家庭が多く厳しい環境だが、明るさと結束力を学校を盛り上げようと決意した=2011年12月2日



Q 田老地区の防潮堤と市街地復興[X型] 第1線の防潮堤は海抜10mから14.7mに増強。山側の第2線堤は地盤沈下した70%分のかさ上げを行った。完成は第1が今年9月を予定。新しい市街地は造成後の標高で10m以上して利用。15年度まで住宅建設開始を見込む。(奥州支局・熊谷宏彰)

## 校舎復旧

この「学ぶ防災」事業は反響が大きく、1年間の見学者は約1万9千人。ガイド4人が忙しく「なす佐々木さんは支援への感謝を伝える役目もある。体力が続く限り頑張る」と持ち前の笑顔を取り戻していた。

東北に自をやると、地上6階のうち3階まで鉄骨がむき出しの「たろう観光ホテル」が津波の脅威を今も伝える。その裏山が市街地の集団移転先に決まった乙部地区。市の計画では秋に造成が始まり、2015年度に住宅が建ち始める。

その完成を待ち望む一人がグリーンピア三陸みやこの仮設店舗「たろちゃんハウス」(39)。津波の際、かろうじて持ち出した亡き父の形見のはさみを手に「早く自分の店を開く」と再建への決意は摇るぎない。

だが、田老地区の人口は震災前の約4400人から約3600人に減り、市の被災住民調査では約半数が田老以外での居住を希望。丸山さん

は「新しい町ができるとも商売が成り立つか、不安も増している」と心配した。

祐太君は「学校生活に落ちる」と近況を語つて

## 雨の巨大防潮堤で観光客に被災状況を語る佐々木利香子さん(左)。震災支援への感謝も込めてガイドに励む=3日、宮古市田老



## トンネル内 被災免れる



南リアス線で唯一被災免れた「奇跡の車両」に乗組む乗客=大船渡市の駅

車両に備えてきた。奇跡の車両は線路が

運行本部長は「まさに間一髪。もう少し進んでしまっても危ない」と振り返る。

奇跡の車両は線路が荒川橋りょうが流失するなど、多くの線路が

地震と津波で被災。南リアス線の他の列車3

車両は水に漬かり、使用できなくなった。

トンネル内出口付近で、鐵道フ

行本部からの無線を受けて、トンネル内で緊急停車した。

奇跡の車両は「キッ

## 奇跡の車両 鉄路に再び

## 三鉄南リアス線

震災発生時は、同市援したくて来た。霧田と釜石市にまたがる鐵道ト、ずっと2号」とし、釜石市にまたがる鐵道と2往復。櫻柄に装飾を行った同市夏井町の工場トணネルを走行。大

い、3年の山本慶君と吉永

くれた。2014年4月の全線再開に向けた復興の象徴として、イベント列車に活用される。

奇跡の車両は「キッ

ト、ずっと2号」とし、釜石市にまたがる鐵道と2往復。櫻柄に装飾を行った同市夏井町の工場トணネルを走行。大

い、3年の山本慶君と吉永